

## 【ルール作りを急ぎましょう】

“中高生「携帯漬け」”の見出しが新聞に。「中2の2割,メール1日50通」「高2の2割,食事や授業中も」と書かれているのを見て驚いた方も多いのではないのでしょうか。しかし,私も食事中にメールのやりとりをする子を何度も見かけたことがあります。「電話だから,メールだから仕方がない」と,親も諦めているのでしょうか。子どもは「今電話に出ないと,今メールの返信をしないと,友だちから嫌われてしまうから」と言うようです。携帯電話が便利なものから,自分の生活を窮屈にするものになりつつあることも多くの人々が感じていることかもしれません。それでも,時と場を考えて電源を切ることができないでいる子は多いようです。

さて,この小学校の児童はどうでしょうか。私も実態を把握しているとは言えませんが,先日上級生の子ども同士が一晩にかなり多くのメールのやり取りをしたらしいということを目にし,大変驚きました。子どもが自分の部屋に入ってしまうと,何をしているのか分からないのも確かでしょう。だからといって仕方がないとは言ってはいられません。せめて,子ども自身がしっかりと判断ができるまでは,家庭内で一定のルールを作ることは必要です。携帯電話の使い方について,まだ家庭内でルール作りがされていない方は早急に子どもとの話し合いをお願いいたします。

## 【発表会を終えて】

先日行われた発表会では,合唱,合奏,表現,英語などの様々な発表をご覧いただきました。1月末から発表会に向けた時間割を実施し,音楽や表現の授業を通常よりも少し多く取ることになりましたが,この間子どもたち一人ひとりが自分の取り組むべき課題にしっかりと向き合って練習を続けてきました。しかし,練習の段階では子どもも教員もいろいろな困難にぶつかることがあります。練習に集中できない子がいると,そういう子一人ひとりと話をすることもあります。また,楽器の演奏がなかなか思うようにできない子と個別に練習することもあります。教員からの声かけや応援,友だちからの励ましに支えられながら,子どもたち一人ひとりが目の前にある課題を乗り越えて,ようやく発表の場に立っていることも確かなことです。保護者の皆さんには学校での子どもたちの様子をご覧いただける一つの機会として楽しみにしていただいていることと思いますが,当日の子どもたちの発表からそれまでの積み重ねを感じ取っていただけたのではないのでしょうか。

また,今回の発表会では,私たち教員が学んだこともいくつかありました。その一つは,準備や練習に取り組んでいる子どもたち一人ひとりの心情をもっと察していかなければならないということです。劇やダンス,音楽を発表できるレベルにしていくことを目標にすることは大切ですが,その過程で子どもたち一人ひとりが何を思い,どのような気持ちでそのときの練習に取り組んでいるかを理解しなければなりません。また,そうすることで,よりよい成果が得られると考えます。

## 【子どもの成長のために】

3月14日に桐光学園小学校8期生が卒業しました。これからの中学校生活を皆楽しみにしていることでしょう。私は,卒業式の式辞で,「皆さんがこれから生活する場で,自分なりの花を咲かせる努力をしてほしい」という言葉を送りました。小学校時代に,家庭でも学校でも大切にされてきた子どもたち。嬉しいときに一緒に喜んでくれる人たちがいたでしょう。また,悲しい顔をしていると誰かが声をかけてくれたこともあったでしょう。しかし,毎日の生活の中で,「自分らしく生活する」ことの大切さは理解していても,そこに必要な「努力」というものをまだ十分に認識できないまま小学校生活を終えてしまった子もいるかもしれません。これからの生活において,自分らしさを作り上げていくときに,欠かせないのが自分の置かれた場での努力です。努力するからこそ自分らしい花が咲く,日々の充実があるということ。大人に近づくというのはそういうことであることを卒業生に伝えたいと考えていました。

今小学校で生活している子どもたちにも,小学生なりの努力のあり方をこれから伝えていかなければならないと考えています。本日お配りした「のびる子」の中の通信欄には,担任からのメッセージがあります。子どもの成長の様子やこれから頑張してほしいことなどが書かれています。ここからは,担任が一人ひとりの子どもに対して期待する「努力」の方向性のようなものを読み取っていただければありがたいです。

4月になると学年が一つ上がり,学校の中での役割も大きく変わります。環境の変化が子どもを変えることもあります。しかし,子ども一人ひとりが自分にできること,自分ができるようになりたいことを考えなければ成長は期待できないでしょう。私たちが保護者の皆さんと一緒にできることは,子どもを成長させることではなくて,成長する子どもたちを支え,見守ることなのかもしれません。例えば,子どもが自分の気持ちを友だちにうまく伝えられずに悩んでいるときに,教員や保護者がその子に代わって全てを伝えるのではなくて,どうしたら子どもが自分でそれができるようになるかを考えてあげることが大切だということです。

4月からの新たな学校生活を皆で気持ちよく迎えることができるよう,短い春休み期間ではありますが,一日一日を大切にお過ごしください。